

「放射線治療に用いるオーラルアプライアンスの有効性と製法について」

山野井 敬彦

新潟大学医歯学総合病院 診療支援部歯科技工部門
新潟県歯科技工士会

医療の高度化、複雑化が進み、医療関係者全般に多職種との連携がきわめて重要になっている。

しかし、同じ歯科医療従事者である歯科衛生士に比べて、歯科技工士が関わることのできる多職種連携・医科歯科・医療連携がほとんど進んでいないのが現状である。しかし、デジタルデンティストリーが進んだ昨今、実物大臓器 3D モデルの製作等、歯科技工士が関与できる新たな環境が出来てきたのも事実である。

一方で以前から行われてきた脳血管疾患や舌欠損による摂食・嚥下障害に用いられる舌接触補助床や手術時の気管挿管時に用いられる保護装置の製作も歯科技工士が関与できる医療連携として注目されている。

このように従来からの歯科技工技術を用いて製作された装置によって歯科技工士はその存在意義を示すことが可能となってきた。

昨今、頭頸部や口腔のがん治療にあたり手術を回避し放射線治療が選択される症例が増加傾向にあるが、放射線治療による放射線口腔粘膜炎は必ず発現する。

口腔粘膜炎悪化は患者に苦痛を与えるだけでなく放射線治療による効果をも低下させる可能性もある。また、放射線治療のために補綴装置を除去した場合の再補綴治療が不要になり、医療費の抑制効果も期待できる。よって現在急速に進む医科歯科連携において放射線治療に用いるオーラルアプライアンスのさらなる普及が望まれる。

今回は、放射線治療の際に用いるオーラルアプライアンスについて、その有効性と製作方法を解説する。また、手術時の気管挿管時に用いられる保護装置についても簡単に紹介したい。

「やってみよう IOS 基礎から学ぶ IOS」

眞野 哲（新潟県歯科技工士会）

現在、多くのメーカーが独自に開発を行っている口腔内スキャナー。我々歯科技工士にとっても、もはや避けては通れない時代に突入してまいりました。恐らく次期保険診療報酬改定迄には算定される事となり、現状のままでは、技工はおろか受注すら出来ない未来が、容易に想像されます。そのような状況に陥らないよう、IOS の基礎知識及び受注から納品までの流れと 豆知識を解説させて頂きたいと思っております。